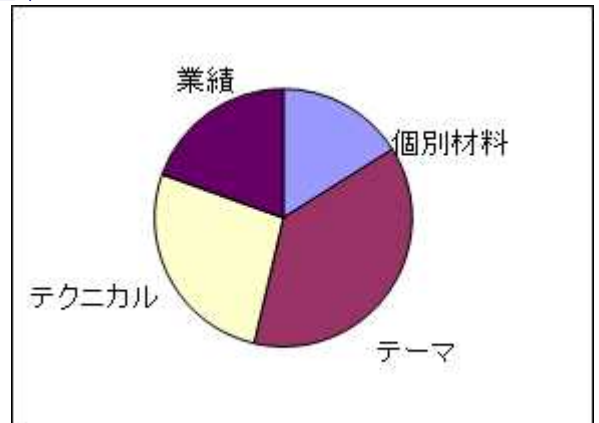


フィスコ全体での戦績 11勝9敗2分 (7予想)

2月のパフォーマンスは勝ち越しとなった。大型株の上値が重くなる一方、マザーズやJASDAQが歴史的な連騰記録を残すなど中小型株の強い動きが目立った。トランプ大統領の議会演説を3月1日に控えていたこともあり、日経平均は膠着感を強めている。

個別では、新興市場やIPOを担当している小型アナリストの戦績が安定している。1月以降の戦績は8勝1敗2予想と好調に推移。3月も引き続き欧米イベントを見極めたいとするムードが強まることから中小型株中心の地合いとなりそうだ。



勝率の高い要因

小林 大純 戦績3勝1敗1予想

■2月の振り返り

新興市場では短期の回転売買が活発となり、マザーズ、ジャスダックとも堅調な展開だった。取り上げた銘柄では、セラク<6199>が農業 ICT 関連として人気化し、アカツキ<3932>は業績上方修正後の市場評価引き上げの動きを捉えた。前月から継続した直近IPO銘柄のJMC<5704>は早期に目標達成したが、足元でも大相場を見せている。反面、ロックオン<3690>は好決算ながら上値の重さが嫌気されて撤退。

■3月の戦略

為替市場で円安が進まず、大型株は手掛かり材料に乏しいことから、引き続き中小型株に物色が向かいやすい。一方、中小型株にも徐々に高値警戒感が広がっているうえ、3月のIPOラッシュが需給面の重しとなるため、従前より銘柄選別色は強まると想定しておきたい。新規上場銘柄も候補として検討する。

田代 昌之 戦績2勝1敗2予想

■2月の振り返り

中小型株で動意付きそうな銘柄をウォッチしていたが、さほど高い戦績及びパフォーマンスはえられなかった。ただ、農業総合研究所<3541>やじげん<3679>は足元動意付きそうな状況にあり、今月期待したい。

■3月の戦略

今月はトランプ大統領の予算教書、オランダ下院選挙、米FOMCでの利上げの有無などの重要イベントは中旬に集中。大型株は引き続き身動きの取りにくい状況にある。引き続き高値更新で需給面の良好な中小型株に注目か。一方、配当権利取りに向けた動きが月末まで期待できることで、オーソドックスだが、高配当利回り銘柄にも関心を高めておきたい。

佐藤 勝己 戦績5勝7敗2分

■2月の振り返り

2月は5勝7敗と負け越しとなった。ピジョン<7956>などが比較的良好なパフォーマンスとなつてはいるが、総じて小動きにとどまっている。日経平均が方向感の乏しい動きを続けていることで、個別銘柄も総じて日中値幅が限定的なものにとどまった。2月は新興市場の良好なパフォーマンスが目立っていたことで、値動きの軽い中小型株を選定するべきではあった。

■3月の戦略

3月は中旬にかけてイベントが集中するため、引き続き月前半は様子見ムードの強まる状況が継続すると考える。また、後半はIPOラッシュを迎えることで、新興市場銘柄には需給面での警戒感も高まる可能性が高い。低位の材料株などにやや関心をシフトさせていきたいと思う。

若杉 篤史 戦績1勝0敗3予想

■2月の振り返り

主要取引先であるホンダ<7267>の好決算を受けて2月6日寄り付き(1089円)からエイチワン<5989>の予想を開始。堅実運用を想定しており、いつも通り早めに利益確定をしたものの30%超の上昇となった。2月高値で1746円、その後も上げ幅を広げており保有継続された方は利幅が更に増加した。スタジオアタオ<3550>は1月24日の後場から予想を開始(4575円)。短期で値幅が取れすぐに利益確定としたが、結果的にも若干急いだ印象となった。

■3月の戦略

トランプ米大統領の議会演説を無事に通過した。3月は15日にオランダ総選挙やFOMC(米連邦公開市場委員会)での利上げが控えていることから、相場動向には注意したいところ。なお、足元で地政学リスクが高まっていることもあり、防衛関連銘柄には注意を払っておきたい。

村瀬 智一 戦績0勝0敗1予想

■2月の振り返り

アイレックス<6944>に注目したが、25日線を支持線としてリバウンド基調を見せながらも、なかなか利益確定のタイミングが掴めなかった。その他、イー・ガーディアン<6050>、サイゼリヤ<7581>、ディー・エヌ・エー<2432>は現在値の水準。モバイルファクトリー<3912>は高値圏での推移だが、三角もち合いが煮詰まってきたおり、再動意の展開でのクローズを想定する。

■3月の戦略

日経平均はもち合いレンジを突破できずにいる。メジャーSQ通過後は、期末要因から機関投資家は動けなくなるため、基本的には中小型株での値幅取り狙いが中心になるとみている。持続的な上昇を続ける銘柄も少なくなく、個人の需給は良好と判断。